

第14回シグナル伝達医学グローバルCOE学術講演会

産業医科大学医学部第1内科学講座・教授

産業医科大学病院・副院長

田中良哉 教授をお招きし講演会を開催します。

宜しくご参加くださいますよう、ご案内いたします。



日時：平成21年10月2日（金）18：30～

場所：神緑会館多目的ホール

講師：産業医科大学医学部

第1内科学講座

産業医科大学病院・副院長

田中良哉 教授

題目：生物学的製剤による免疫難病の治療革命 ～ベンチからベッドサイド、ベッドサイドからベンチへ～

30年前に発表されたモノクローナル抗体などの免疫学的ツールを応用した生物学的製剤は、特定の標的分子の制御を目的として免疫難病の治療に臨床応用されてきた。関節リウマチに対するTNF α 阻害薬はリサーチトランスレーションが最も成功した例である。関節リウマチの治療では、TNFを標的とした生物学的製剤の導入により、理論とエビデンスに基づいた明確な目標設定が可能となった。即ち、臨床的寛解や低疾患活動性を維持する治療を継続（“treat-to-target”）すれば、臨床的寛解、構造的寛解、機能的寛解を目標とすることが可能となった。その延長線上には、バイオフィリー寛解や薬剤フリー寛解（治癒）をも射程に入ってきた。また、長期に亘って身体機能を維持し、心・脳血管障害抑制を介する生命予後の改善が報告され、糖尿病や高脂血症などの他の内科疾患と同様、治療のエンドポイントを生命予後に置くことが可能となった。さらに、より高い寛解導入率を得るためにも、免疫担当細胞を標的とした生物学的製剤、シグナル分子を標的とした低分子化合物の開発が期待されている。斯様な治療革命は、関節リウマチに限らず、炎症性腸疾患を含む多様な自己免疫疾患、眼、移植拒絶などの、多様な領域で治療のブレークスルーを引き起こす勢いである。

<連絡先>

神戸大学プログラム「シグナル伝達医学の教育研究国際拠点」
シグナル伝達医学グローバルCOE事務局

TEL：078-382-5200 E-mail: gcoestm@med.kobe-u.ac.jp

(担当：細胞生理学分野

南 康博（内線 5561）)